

自分の感覚を信じて進む力

新しい年を迎え、保護者の皆様、地域の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、本年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。

私の年始の楽しみの1つに、「箱根駅伝」があります。今年も多くのドラマが生まれました。大会新記録10時間37分34秒で、3年連続9回目の総合優勝を果たした青山学院大学の完成度の高い駅伝力。同じく大会新記録を出しながらも、同校の過去最高順位の2位でフィニッシュし、安定したチーム力を発揮した國學院大学。予選会からの出場ながら、地道な積み重ねと粘り強さを発揮し、3位になった順天堂大学。往路17位から復路で巻き返し見事シード権を獲得した帝京大学。20年連続で保持していたシード権を逃した東洋大学。

それぞれの大学、選手がつなぐ「襷(たすき)」は、仲間の想いをつなぐ絆の証であり、責任と信頼の象徴ともいえます。

特に、箱根駅伝最大の難所である山上りの5区を、今までの記録を1分55秒も更新する衝撃の区間新記録1時間7分16秒で走った、青山学院大学の黒田朝日選手の姿が、心に強く残りました。

黒田選手は、競技中に腕時計をつけずに走ることで知られています。なぜなら、「タイムにとらわれず、自分の感覚を信じて走る」ことを大切にしているからだそうです。この姿勢は、私たちの学校生活にも通じるものがあります。テストの点数や周囲からの評価に一喜一憂するのではなく、「自分の感覚」や「自分らしさ」を大切に日々の学びや挑戦、仲間との関わりに向き合うことです。

社会は今、急速な変化の中にあります。AIの進化、価値観の多様化、人口減少や気候変動、そして、予測不能な出来事の連続。そんな時代に必要なのは、「誰かの正解」ではなく、正解のない問いに向き合い、自分の価値観で選び、行動していく力、「自分の感覚を信じて進む力」だと思います。

もちろん、感覚を信じるためには、日々の努力や経験の積み重ねが必要です。黒田選手も何度も失敗を重ねながら、自分の走りを磨いてきました。子どもたちには、「うまくいかない日があっても大丈夫。自分のペースで前に進もう」と伝えました。

また、「感覚」には自分だけの都合を優先させるのではなく、相手の立場になって考えること、違いを認め合うこと、そして、コミュニケーションをとること、これらは、どんなに技術が進歩しても、人と人が共に生きる社会において、決して失ってはならない力だと思います。

今年も、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、「自分らしさ」「その子らしさ」を職員一同で支えてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【後期後半スタートの全校集会で

子どもたちに話したこと】

後期後半がスタートしました。6年生の卒業式までの授業日数は49日間です。

1年の締めくくりでもあると同時に、次の学年や新たな環境への準備期間でもあります。この期間に各学年に大事にしたいことを話しました。引き続き、元気と笑顔の輪を広げて、元気と笑顔いっぱいの城西小学校になるよう努めてまいります。

こう き こう はん だい じ 後期後半に大事にしたいこと

「できた」「わかった」のよろこびでねばりよく 1

自分たちで「やってみる」 2

仲間との「協働・協力」 3

「自分も仲間も」 4

学校を「支える」存在 5

「感謝」と「旅立ち」 6